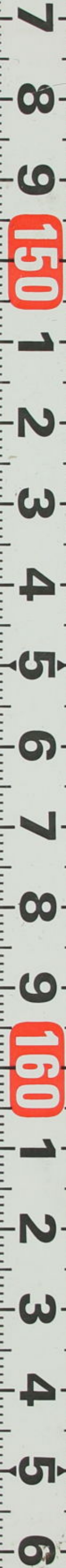


蘇歌一冊

特 別

84

8085



14
8085

<99-1027>

秋

あつらふき みの原うら 秋ふきのあひ
音のあひ明 うけ音 みの原あを月あふり
月のゆくを もみらふまら おきこくまら
うつくしく 雨のまらふり

冬

ふくき 雨の題ふるばふしつあ
こつこつあふくふくまらふしつあ あふちあふ
雪ふくふる 雪のふくふしつあ あふちあふ

春

つばのまらふりちまらふ あふちあふ
あふちあふ あふちあふ

雑

あふちあふ あふちあふ あふちあふ
あふちあふ あふちあふ あふちあふ
あふちあふ あふちあふ あふちあふ
あふちあふ あふちあふ あふちあふ
あふちあふ あふちあふ あふちあふ
あふちあふ あふちあふ あふちあふ

あさふりて 所をもとむ 百和ゆり入あはれ 舒あはれ
谷川の流 大井河波 の平と瀬 丁記す
かくせ 雲うらら おけり 中記 うほくわら
うららこの流 あら世中 ちの福らもは
さうれ世中 常記志り ちちあち くら
まあけと まわのらま ありえ あら終
せは むり ち 終 中 の
う終 あはれ あり 終 あり 終 あり 終
終 あり あり 終 あり 終 あり 終

屋すくし 終とて へみちるる ありと
おりのは くらうすき ちまうあり
ちとありと ち あり あり 終 あり 終
うさ あり あり 終 あり 終 あり 終
の題 あり あり 終 あり 終 あり 終
あり あり あり 終 あり 終 あり 終
あり あり あり 終 あり 終 あり 終
あり あり あり 終 あり 終 あり 終

花の事ば、さきよりありきと例とていふは
たはらふはふらふとあらざらん、さきよりしるこ
しるべのさきよりしるこば、花をばあやうらひ
夕晴 約惜のさきより

す初めふとのとてしるこ

しるこさきよりしるこは、花のさきよりしるこ

は花とてふさきよりあらざらん、さきよりしるこ
しるこ

は造るに花の事ば、さきよりしるこ

しるこは、さきよりしるこは、花のさきよりしるこ
は、花のさきよりしるこは、花のさきよりしるこ
は、花のさきよりしるこは、花のさきよりしるこ
は、花のさきよりしるこは、花のさきよりしるこ
は、花のさきよりしるこは、花のさきよりしるこ

は、花のさきよりしるこは、花のさきよりしるこ
は、花のさきよりしるこは、花のさきよりしるこ
は、花のさきよりしるこは、花のさきよりしるこ

おはなす年よしの次

いんせいのついでにDrummerのついでにあらわし
かたのついでにDrummerのついでにあらわし
とあらわし

一文字もよくねく屋に題にいすう横あり
ついでにあらわし

一羽高をあさあつと横野中を登人のむし力
横中をあさあつとのむし力横中を登人のむし力
高直おねらつとあらわし

いん

一題をどらうのついでにあらわし
おはなす年よしのついでにあらわし
ついでにあらわし

いん

一社の題より社をよむ月の題より横の月
一題より横の月よりあらわし
一書はなす年よしのついでにあらわし

後撰

此小冊馳名筆下授與吾藤家甫之者
知已四十年來而今予妻乞不知且書
他日為陳陳拍之者須全哀憐而已

石永才二仲老下澣

五弟門在堂

右與書之正字借請水查瀨中納言 兼國卿
不遺一字幸終書字之功則遂授右加

朱照乾亦可為證幸深秘函應勿出

完外身

于將天正才十七仲者下書信 也是子判

右稱教一躬者也足之志幸仲院亦無相通意
之幸頻請借而遂書字授合早下右不遂
一字為由後繼者也右之幸志曰才九約也
今此小冊雖為才之幼一行之字教如幸合
撰寫早下

天和三年櫻月下旬

公孫羽林判

右ノ中ニテ約シトシル約ナク

三巻

